

令和元年度第1回 岡山県総合教育会議 議事録

1 日 時 令和元年8月16日(金)〈開会：13時10分、閉会：13時50分〉

2 場 所 県庁3階第1会議室

3 出席者 知 事 伊原木 隆太
教育長 鍵本 芳明
教育委員 上地 玲子 中島 義雄 松田 欣也
梶谷 俊介 田野 美佐

4 協議事項に係る出席者の発言

【知事】

皆さん、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

昨年度の豪雨災害では、全壊・半壊した住戸が8,000戸を超え、また非常に多くの方が命を落とされるなど、大きな被害に見舞われました。7月に倉敷市、総社市で開催された追悼式及び式典に出席し、県民の代表として弔意を表してまいりました。教育活動にも大きな被害・影響が出ましたが、倉敷まきび支援学校では、2学期の開始から元の校舎で教育活動が再開できることとなりました。子どもたちが安心して学校生活を送れるよう、引き続き、復旧・復興に全力を尽くしてまいります。

さて、今日の会議のテーマ「令和2年度における取組の方向性」ということで、意見交換を予定しております。教育につきましては「教育県岡山の復活」を新生き生きプランの重点戦略の一つに位置づけ、各種施策に取り組んできた結果、今年度の全国学力・学習状況調査では、平均正答率で見ると、小学校の全国順位は29位、中学校は19位となり、課題であった家庭学習時間にも改善の兆しが見え始めるなど、一定の成果が現れたものと考えております。今後もこれまでの取り組みの効果検証を行い、課題の解消を着実に進めていく必要があると考えております。

皆様から忌憚のないご意見を頂き、来年度の取組の参考とさせていただきたいと考えております。

それでは、現状とこれまでの取組等について、説明をお願いします。

【教育政策課長】

それでは、「現状とこれまでの主な取組」と記載した資料をご覧ください。

大きく3つの囲みで、【学力向上】【長期欠席・不登校対策】【グローバル人材の育成】の三本柱でまとめております。

まず、「学力向上」についてでございます。

現状、上から2つ目の黒い四角ですが、授業以外で平日に1時間以上学習する子ども

の割合でございますけれども、小中学校とも改善傾向にあるものの、中学校は64.6%で全国を下回っております。これまでの主な取組ですが、【授業改善】【補充学習の充実】【家庭学習習慣の定着】に取り組んでいるところでございます。

次に、「長期欠席・不登校対策」でございます。

現状ですが、小中ともに不登校出現率は上昇傾向にありまして、特に小学校は0.57%と全国を上回っているところでございます。主な取組でございますが、特に真ん中の【早期対応】といたしまして、小学校へ登校支援員の配置などを行っているところでございます。

3つ目の「グローバル人材の育成」でございます。

現状といたしまして、上2つの黒い四角ですが、海外の学校との姉妹校提携、あるいは高校生の留学者数、これは着実に伸びております。その下の、英検準1級以上を取得している教員の割合、こちらも伸びてきてはおりますが、中学校では34.2%と、全国を下回っている状況でございます。主な取組といたしまして、一番下でございますが、教員の英語力あるいは指導力の向上に向けまして、民間と連携した研修などを行っているところでございます。

次のページからは、具体の取組をお示ししております。

まず、次のページが「学力向上」でございます。学力向上に成果を上げております学校といたしまして、津山市立鶴山中学校を挙げています。右上の写真が、生徒同士の教え合い学習を日常的に行っている状況です。その下が、放課後とか土曜日、夏休み等の補充学習の様子です。左側が、班対抗で家庭学習時間を競わせる取組でございます。

右のページにまいりまして、こちらが「地域との連携・協働」でございます。

コミュニティスクールであります、勝央中学校、鴨方東小学校の状況でございます。左上の写真の通り、この学校運営の方針策定に地域の方に関わってもらったり、その他いろいろ写真がございますけれども、様々な教育活動に地域の方々から支援をいただいたりするなど、学校と地域が協働で子どもを育てる取組を進めているところでございます。

最後のページでございますが、上のほうが「長期欠席・不登校対策」でございます。

昨年度、教員の手引き書であります『岡山型長期欠席・不登校対策スタンダード』を策定いたしまして、本年度はその普及を通して、学校の組織的な対応を進めているところでございます。

最後、下半分「グローバル人材の育成」でございます。

29年度から、ベネッセの検定試験GTECをモデル校で実施しており、その結果を各学校の授業改善に生かして、達成率も上昇しているところでございます。

説明は、以上でございます。

【知事】

どうもありがとうございました。

それでは、こういったことも踏まえまして、皆様方にはどういった取組に今後、力を

入れていくべきかなど、何でも結構です。ご意見をお聞かせいただければと思います。

【教育委員】

私は、中学生の学力が気になっています。今回のような鶴山中学校がやっておられる好事例を、自分の学校に持ち帰って、自分の学校の中で取り組んでいっている学校がどれぐらいあるのかも気になります。そういう好事例をどんどん普及していただきたいと思いますし、やはり放課後学習とか、子どもたちも結構やっているんですけども、本当にそれ以前に分からない子どもも割といるんです。もちろん、家庭学習も必要だと思いますし、家庭学習の仕方などは、やはり保護者も含めて考えていかなければいけない。学校だけではできないところを、家庭と地域の方が連携してフォローしていく必要があると思います。どうしても中学生の学力というのが一番気になるので、その辺のところをもっと深く拡充していけたらいいかなと思っています。

【教育委員】

小中学校長会の方とお話をして、いろんな意見を伺う中で、やはり県の施策として非常に効果があったのが、各学校に入っている学校のアシスタントです。もちろん今、働き方改革で、先生の仕事を落とさないといけないということもあるんですけど、それに対しても、アシスタントが来てくれることによって、すごく業務が楽になってきているという話があります。ただ、現実に入っている学校というのは半分ぐらいだということですので、これをぜひ進めていただきたい。そうすると、各学校の先生方の負担が減り、その分、子どもたちに向き合える時間が増えてきて、それが、最終的には学力向上にもつながってくると思うので、ぜひそういうことを増やしてほしいというご意見があり、確かになと思っています。ぜひご検討いただければと思っています。

あともう一つ、家庭教育についてですけど、家庭教育を本当に増やそう、増やそうと学校では言っていますが、それが実際に伝わっているかということ、学校に興味を持っている家庭の方には伝わっていても、そうでない方にはなかなか伝わっていないことがあります。やはりそれは、教育だけではなく、例えば県として標語で「学校から帰ったら一日一時間勉強しましょう」とか、そういうものを県として挙げていただくことより伝わるのではないかという話があり、これも確かにおっしゃる通りだなと思いました。ぜひ、そういうこともご検討いただければと思っています。

【教育委員】

グローバル人材の育成で、中学校の英語は単語力が低いというお話がありましたけれども、来年度からは小学校英語がスタートしますので、小学校のときから4技能をしつかりと身に付ける指導方法を徹底していただけたらいいのかなと思っています。そのためには、例えば、少人数にグループ分けして、それを7分刻みで子どもたちを回転させて、一つのグループはリーディングをします、その次のグループはパソコンで単語入力

ゲームをします、その次はライティングをします。そして、ALTでもいいんですけど、先生がそこに1人いて、4人来たら1人ずつ読んだ内容について英語でディスカッションさせるという指導方法を聞いたことがあります。この指導方法を、一つの授業で毎回、毎回やっていると、子どもたちのスキルがどんどん上がって行って、そして中学校に入る頃には単語力もしっかり身につくのではないのかなというふうに感じているものですから、小学校英語については、指導方法について、いろんな良いところをまねして取り組んでほしいなと思っています。

【教育委員】

令和2年度からという、やはり今、文科省が出している新学習指導要領で、「社会に開かれた教育課程の実現」という理念が掲げられていますけれども、これは本当にどうやって実現していくのかという部分が大きなテーマになってくるだろうなと思います。というのも、社会に開かれた教育課程の実現は、教育現場のほうがいくら言ってみても、社会側がそれを一緒にやるよという姿勢が出てこない限りうまく回らない。結局、形だけ学校運営協議会では「する」と言ってみても、あまり成果が出ません。そうすると、これは本当に教育問題、家庭の教育の問題もありましたけども、県全体として、要するに教育委員会が学校への働きかけと同時に、逆に産業界とかいろんなところへ、これをどう共有化して一緒にやっていくか、そんなことをどうやっていくのかというのをトライアルしていかないといけないのかなと思います。

高校の教育も、この前新しい学習指導要領を企画した岡山県出身の方に直接話を聞く機会があったんですけど、そのときも高校の普通科をどうするのかということまでにはらんでいる。要するに、地域のことを本気でやる人がほとんどいなくなっていて、逆に言うと今、普通科7割で職業科3割ぐらいですけど、これを職業科・専門教育が3割、普通科3割、それから地域を中心にやるのを3割ぐらいの比率にしたいというような話を聞いたりしたものですから、改めて地方創生を含め地域をどう維持していくかという観点から、教育と地域の産業が一緒になって、社会に開かれた教育課程をどのようなシステムにするのか、また、子どもたちに、我々の地域はどうするかということをしっかり議論しながらやっていける、その仕組みをどうつくっていくかというのは、そろそろ本気で議論していかないと難しいのかなという感じがしています。ここが今後の大きなテーマだと感じています。

【教育委員】

もうだいぶ進んできてはいますが、子どもたちにとって、環境整備をしてあげることが大切だと思います。家に帰っても、お父さん、お母さんはいらっしやらないし、また学校現場と子どもたちの接点だけで終わってしまっているというような状況にならないよう、地域で支える仕組みをもっと進めていく必要があるのではないかと思います。家庭も町内会に属していますし、そこで住んでいる親の世代の方々は、多くの方々が地域企業に帰属しているわけなので、企業がその地域を挙げて学校を支えていく仕組

みが必要なのですが、今、PTAの総会を開いても出席率が低いんです。これはやはり、職場の環境というものもそれぞれの会社であるのかもしれないですけど、企業側もしっかり子どもたちを支えていくためには、親が学校へ行ってもらえるような取組をしないといけないといけません。そうしないと、子どもはいつまでたっても一人で全てを受け止めていけないといけないことになってしまうのではないかなと思うので、そういったルールづくりというか、一緒になって取り組めるようになればと思っています。

【教育長】

今、お話があった中で、地域と一緒に学校づくりを進めるということは、一つはコミュニティスクールも方向が変わりまして、努力義務に変わってきましたので、今、岡山県の中にもそういう動きはだいぶ出てきていると思っています。県教委としても今、各市町村の教委に対して、そういったことの支援を進めていきますよというメッセージをしっかりと発信しているんですけども、もう少しそういったことを進めていかなければいけないし、それがそういうことに結びついていくのかというのは、やっぱり好事例もしっかり発信していかないといけないと思っています。県立学校についても、同じようなことであろうかと思えます。

それから、学力等で良い結果が中学校において出始めていると申し上げたほうがいいのかなと思います。中学校の校長とだいぶいろんなところを回って話をしましたけども、一つは、学校が落ち着いてきているということが大きいという話が出てきています。それは、いろんな取組も進めてきているところではありますが、やはり地域の中で学校をどうしていこうかというのを本気で考えていただいているところが大きいと思います。そういう意味では、先ほどの環境という点では、環境が整ってきているんだろうと思っています。それが一つの方向性として出てきているので、あとはこの上にどう進めていけばいいのかというのは、やはり校長がリーダーシップをとることが大きいと思います。ただ校長が一人でやるのではなくて、地域の意見を聞きつつ、協力もしてもらいながら、校長がしっかりリーダーシップを発揮できるように、それも応援するような形で、県教委としてどういう関わりができるのかということのをいろいろと考えていかないといけないと思っています。あとは、最初のお話にあった、いわゆるつまずいている子どもたちをどう上げていくのかということに大きなウエートを置いてやっていけるよう、学校の先生たちの力を上げていかないといけないと思います。特に中学校になってからは、スタートの段階でつまずいている状況がある子どもたちをどのようにすくい上げていくのが重要で、やはり、どの子も見捨てないという姿勢が大事だと思っていますので、引き続き、さらに工夫をして取り組んでいかないといけないと思っています。

【知事】

ありがとうございます。1巡目から大変濃い、深いご意見を頂きました。本当に言われた通り、社会が変化しているときに、学校が十分その変化に対応しきれているかなという指摘が多かったように思います。子どもが、学校だけの考え方をもとに育てられ

て大人になったときに、社会が要求している人材と違ったというのは、これは本当に社会にとっても、ご本人にとっても、ちょっと残念なことになりますよね。

あともう一つそうだなと思ったのは、教師業務アシスタントのお話についてです。我々がずっと聞いていたのは、先生を増やしてくれというお話だったんですけど、先生を増やすのは難しいんですよね。一つは、一番コストが高いということ。また、今、倍率が下がっているときにかなり妥協してどんどん採用してしまうと、これから40年頑張ってもらふ人の質が低いままということになる。これだったら資格を持ってない人でもできるよというところを、切り分けてやってもらっただけでも随分違ってきます。これはすごく大げさなんですけど、ヘンリー・フォードが昔言っていた、お客さんの言うことを聞いていたら、お客さんの要望はもっと速い馬車が欲しいということになっていただろうねと。お客さんが想像していなかったけど、結果的にお客さんがより満足してくれるような何か提案ができれば、それが一番だよねと。すごく大げさに言えば、そういうことかなと思います。いろんな要請にはしっかり耳を傾けつつ、時々には本当の思いを酌み取って別の提案をするというのもあるんだなと、お話をお伺いして思いました。

【教育委員】

一つちょっと感じるものがあって、今、幼稚園がほとんど認定こども園になってきて、保育園籍と幼稚園籍が一緒になって、幼稚園籍の人は14時で帰る、働いているお母さんたちは18時に迎えに来る。そうなっていることによって、今まで幼稚園はPTAというものがあったものが、認定こども園になると、それは廃止されて保護者会という形になっています。PTAも賛否両論でいろいろ言われていますけれども、やっぱりそういうつながりも大事だと思うんです。

それと、未就学時代にきちんと家庭的な基本的習慣を身につけることが、やっぱり小学校に上がる一步手前になるので、その辺に県がどこまで介入できるか分からないんですけど、今、本当に幼稚園は毎年廃止されていていっているの、その辺のところも、認定こども園になって、どういう状況なのかということも、ちょっと気にしていただけるとありがたいかなと思います。

【教育委員】

日頃会社の仕事をしていて、新しい社員とかを見ていて、学力というよりは人間力やたくましさなどが気になっているところです。例えば岡山県の「教育大綱」の中では、「心豊かに、たくましく、未来を拓く」とうたっておりますが、岡山県の教育はそれを達成できているのかと考えたとき、確かに「心豊かに、たくましく」というのをどうやって評価するのかというのは難しい話なので、何とも言えないところです。ただやっぱり、何か手を打って、例えばスポーツもしかり、それから読書であったりとか音楽とか、そういったものもしかりだと思うんですけど、本当に学力だけじゃなくて、それ以外のところも豊かにして行って、あとは失敗した経験とか、そういうことをしっかり積んだ人間が、やっぱり社会に出て役立つような気がするんです。だから、そういうところを

どう育成していくかだと思います。確かに、点には出てこないのですが、点として評価されないとなかなか難しいところだと思うんですけど、そういうところにも少し力を入れていただくと、最終的に子どもたちが社会に出たときに、やはり役に立つ人材になると思うし、また我々もそういう人たちを採りたいと思っているので、ぜひそういう子どもたちが育つようなことを目標に、具体的に何か手を打ってほしいなと思います。

【教育委員】

私もちょっとそれに関連するかどうか分からないですけど、今、県内の高校生で留学している人数が徐々に増えてはいるのですが、これはいわゆる短期留学を含めていると思います。やっぱり、海外に行って、自分が力を試すのではないけれども、そういういろんな経験ができるすごくいいチャンスだと思うので、そういった子どもたちをどんどん増やしていくことが必要かなと思います。その子たちが、自分の母校に帰ってきたときにリーダーになって、ほかの子どもたちにいい刺激を与えてくれたらいいかなと思っています。そのためには、さっきの英語力も当然必要かなと思っています。今、高校でもオンライン英会話を取り入れたり、ICTの活用をしたりしているようなんですが、聞くとオンラインは、一人の先生につき生徒が4、5人ということなんですが、やっぱりそれだと会話できる子だけがしゃべって、あの子は聞いているということになるし、異国の方、違う文化の方ともしっかり交流するということにはつながらないと思います。今、姉妹校で海外の学校と提携していますが、それをオンラインで子ども同士で一人一人がつながって行って、いろんな文化、いろんな言語でもいいんですけど、一対一でコミュニケーションする、そこに体当たりするような、そういった経験も要るのではないかなと思っています。

それから、ICTもどういったICTを使っているのか、ちょっとよく分からないんですけど、今すごくいいソフトがたくさん出てきていて、私が聞いたところによると、例えば「ロイロノート」というソフトがあります。ああいうのもしっかりと活用してICTも含めたいろんな技能を身につけ、そしてそれが自分の生きる力につながっていったらいいのかなと思います。

【知事】

そうですね。美作市の林野高校でしたか、「クロームブック」を見せてもらいましたけど、あれをうまく使ったら随分いいなあという感じでしたね。

【教育委員】

学校教育と社会教育をどう結びつけていくか、すなわち、社会活動をやっている中でいろんな体験と学校をどう結びつけていくかをもう少しやっていく必要があるのかなと思います。そういう中に、例えば大学も入っていくとか、もう少し連携してやっていくという形をどうつくるかというのは、これから大きなテーマになるかなと思います。これは親の問題もあるんですけど、社会教育とかいろんなことは、親が面倒くさいから

出ないというのもあったりするのです。逆に、親が出なくても、子どもだけでもそういう社会教育のいろんな団体に所属するようなことを、もう少し学校も含めて奨励をしていく必要があると思います。特に防災などは、中学ぐらいになると、もう十分助ける側に回れる部分もあり、子どもたち自身も、社会の中で一つの役割を担えるようになると思います。やはり、子どもたちに社会の役割もきちんと付与しながら、それが学びとつながるようなことをもう少しやっていけるよう、県全体としてやれるようなことがあるのではないかと思います。

【教育委員】

夏休みになると、いろんなスポーツ大会が開かれたり、部活も普段より活動しやすくなったりする中で、子どもたちは楽しくやっています。もっと学力なんかでも、楽しく夢を持ってやってもらえたらなと思います。

鶴山中学校の家庭学習の資料を見ていたら、活動が見える化してあって「可視化」と書いてあります。班対抗でそれぞれに、僕たちこれぐらい家庭学習を頑張ったよとやってみると、鶴山中学校の家庭学習時間が伸びたと。これは、その中に楽しみがあって、見える化もできていて、こういう成功事例を広く展開する。勉強になると、個になって、一人になって、個の学力がどうだと。結果だけは、県下ではどうだとか、学校ではどうだとなってくるんですけど、チーム的なこういう捉え方というのは、子どもたちにとっても楽しいんじゃないかなと思います。

あと、夢を持ってもらいたいということで、この夏休みに、今、岡山大学さんに協力いただいて、「岡大津山スクール」というのを作っていただいています。岡大ワンデーということで、85人ですか、高校生と中学生が岡山大学へ行って、自分たちが将来大学生になったら、どんなところでどんな勉強をするのか見てもらいました。実は、県外へ出て行ってもらいたくないので、岡大を見ておいてもらって、とりあえず岡大に進学してもらいたい、岡山に残ってもらいたいということでやったんです。そうしたら子どもたちが、自分たちは将来こういうところで、大学生になったらこういう勉強をするんだということを見てくれて、実際にそういう意見が多くありました。このように、次の自分たちの勉強をしようという意欲につながるような取組を、経済界と岡大が連携して始めました。今回初めてやったんですけれども、そういう仕組みが幾つもあれば、子どもたちにとってもいい経験ができるのではないかと思います。

【教育長】

先ほどお話がありましたが、たくましい子どもたちをどう育てるのかということは、教育委員会でもよく議論になる話です。やはり、勉強は知識を覚え込む、取り込むだけではなくて、それをアウトプットする機会を作ってやるのが、決められていないものに挑戦をしていくことにつながっていくと思うので、そうしたらいいのではないかなと。つまり、知識を入れただけではなくて、それをつないで、答えのない答えに挑戦していくということですね。

先ほど、普通科改革のお話がありましたけれども、その中の一つに、地域の課題解決ということが盛んに言われていて、それはなぜなのかというと、やはり身近なところで郷土愛も育みながら、その地域の課題を、今まで勉強してきた知識を使いながら解決していくという経験をさせていくことが、一つは汎用的な能力といいますか、これから出会ったことがないような課題に対しても、困らずに解き明かしていけるような力をつけていくということになっていくからなのかなと思っています。岡山県は、もともと地域学ということを生懸命やっていますので、その辺のところをさらにこれから拡大していきたいです。

ただ、そこで大きな課題になってくるのが、やはり高校の範疇に収まらないということなんです。いろんなことを子どもたちは興味を持ってやろうとすると、そこに出てくるのが地域とのつながりで、コンソーシアムという言葉をよく専門家は使うわけですが、そういうときにいろんな企業の方や大学、それから地域の方々に入っていて、子どもたちのいろんなニーズに応じていって、課題解決をお手伝いしてもらおうという組織がこれから必要になっていくと思います。つまり、地域全体で子どもたちを育てていくには、そういうふうな組織をこれから、特に高校中心ですけれども、協力いただきながら、各学校がつくって行って、子どもたちに多様な学びの場をつくっていくことが、先ほどおっしゃったたくましさにつながっていくのかなと思っています。そういうところもこれからしっかり進めていこうと思っています。

【知事】

2巡目は、「たくましさ」というのがキーワードだったと思います。岡山県の標語の中に、「心豊かに、たくましく」というのが入っているのを、私は最初に聞いたときに、良いフレーズだなということで大賛同しました。結局、社会に出るといろんな困難があります。そういうことと言えば、留学なんていうのは究極の挑戦です。我々の年になると、家庭でも、会社でも、近所付き合いでも、子どもとの付き合い、親との付き合い、介護だ、自分自身の健康でも、困難だらけです。いろんなことを完璧な状態でやるのは難しい中で、なんとか回していく。その中でも、守り一辺倒ではなく、何か挑戦をしていくということを考えるときに、留学なんて、もうこれほど大変なことはない。留学先では言葉も習慣も全然違う。その経験は、すごく大きいですよね。ぜひそういう経験をする人を増やしてあげたいですし、せっかく姉妹校をつくったんだったら、誰か一人だけ出すのではなくて、一対一で姉妹校の人とコミュニケーションをとればばいいじゃん。

【教育委員】

オンラインだったら、つながれますよね。

【知事】

これは以前だったら考えられないですよ。1分話すと1,000円かかるみたいなことだったら絶対無理だったのが、今はもう事実上無料でできるようになっています。そうな

ってくると、今度はアメリカの姉妹校よりも、オーストラリアの姉妹校の価値がぐっと上がりますよね。

【教育委員】

時差の関係がありますからね。

【知事】

留学するんだったら、別にどうだってことはないんですけど、オンラインでというと、我々の都合の良い、夜の 11 時に皆さんスタンバイしてくださいなんていうのは、どっちにしても無理ですからね。本当にそういう技術の進歩に従って、なんというか、望ましい姉妹校の特徴も変わってくると感じました。

個とチームのお話がありましたけど、学校教育において、全員大学・大学院で教えるというのは現実的ではありません。チームでの選抜というのもあまり現実的ではありません。最後は個で選抜していくんですけども、そうしたら社会に出たときに、俺の目標は一人でテレビを作ることだとかということにならないじゃないですか。ほとんどの仕事は、文明国ではチームプレーですから、チームプレーができる人を育てるということがすごく大事だと思います。つまり、本当にチームプレーを意識した教育というのが、社会の要請をきちんと考えた学校教育というのと、すごくつながっているような気がします。

私自身も、個人プレーヤーとして大学院まで行って、そこでちょっと初めて教えてもらったようなところがあります。全部勝ちに行く人は、大変社会では扱いづらい。本人もあんまり幸せにならないですよ。いかに上手くみんなとやっていくか。ただ、全部妥協するとか、人の言いなりになるのではなく、いかに創造的なクリエイティブなチームをつくっていくか。全員がリーダーである必要はなくて、うまい引き立て役がいてもいいかもしれない、調整役がいてもいいかもしれないですけど、自分の芸の幅をある程度広げて、2つか3つぐらいのタイプならできるようになればいいと思います。

岡山は、渋野選手やブルゾンちえみの母校である平島小学校がものすごい活躍をしています。明るい人が全国的に有名になっていると、岡山全体が性格のいい人が多いんじゃないかという雰囲気が出て、すごくうれしいなと思っています。

今日の会議は、全国学力・学習状況調査で、中学校が 19 位、小学校が 29 位という話が出たので、学力の話題で大体 8 割ぐらいになるのかなと思いましたが、むしろ、たくましさ、社会とのかかわり、就学前教育、そして留学などの話が出たのは非常に印象深いところでありました。必死で「10 位以内だ」とやっているうちに、大きなものを見落としていたということにならないよう、ぜひバランスよくお願いしたいと思います。

では、大体時間になりましたので、総合教育会議を終了させていただきます。どうもありがとうございました。